

8 装 備 報 告

松 本 繁 文

今回の遠征は、ヒマラヤなどに比べ対称の山々の標高が2000~4000 mと比較的低くまた気候的に、それ程きびしくないため国内における冬山合宿の装備計画をベースにすれば十分であろうということから今回の装備計画をたてました。

特に言えば、メンバーが5人である関係上装備の軽量化をはかる意で登山具は、きりつめ、前進キャンプ用テントはナイロンツェルトに合しよう式ポール(超々ジュラルミン製)とフレームの入る軽く風に強いものを採用しました。

また予想される氷やナイフリッジの状態が、けつきりしないため数種のアイスハーケンとスノーバーを用意しました。

その他の装備類については、全く国内における合宿に沿いました。ただ期間が長くなる関係より予備の必要なものなどを、また、天気の情報のため高度計(気圧計)をつけ加えました。

登 はん 用 具

品 目	数	単 位 数 量	備 考
ナイロンザイル	3	30.0 (kg)	10mm×40m, (11mm×40m)×2
フィックスザイル	250m	1.1kg/40m	当初の計画からは、これが限度
	40m	1.8 /40	であろう。実際今回の使用は、80m
アイスバイル	2	1.0	
アイスハンマー	2	0.5	
アイスハーケン			
(スクリュー)	10	0.1	使用量は 0
(コノ字、平型、パイプ)	20		〃 コノ字型 4
スノーバー	10	0.19	長さ50cm、使用量は 9
カラビナ	35	0.13	使用量は 15
標式用竹ザオ	10		現地にて用意する
赤 布	20		(Paxsonにて、川柳らしきかかれたものを使用)

登山用具

品目	数	単位重量	備考
ブルジツク (4mm)	10mm		(使用時の際、適当な長さに切つて使用 クレモナロープ)
(6mm)	10mm		
オーバーシューズ予備	3	0.40	使用量は 2
アイゼンバンド予備	5	0.05	〃 3
ピッケル予備	2	0.70	〃 1
ピッケルバンド予備	2	0.02	〃 0
背負子	2	1.30	
あぶみ	2	0.70	〃 0

生活用具

品目	数	単位重量	備考
夏用テント (フレームポール) フライ、本体		2.60 Kg	合しより式、中1本フレーム入
		7.60	底つき
簡易テント	2	1.80	合しより式 (ポールは超々ジュラルミン製 フレーム (竹製))
スコップ	3	1.40	(中) 1. (小) 2.
		0.66	(小)はジュラルミン製、(中)は鉄製
ノコギリ	2	1.00	大、小の2種
		0.40	使用はほとんど小で間に合った
ナタ	1	0.70	現地での標式用バーと、ベグ作りに使用
ビニールシート	4		(大) 2. (小) 2. の2種
ホエブス	2	1.40	大・小の2種
		0.70	
ボン	2	0.10	事故の際の、ガソリン節約による 水作りに、有効的であつた。
コツヘル	2	1.40	大・小の2種
		0.80	

品目	数	単位重量	備考
フライパン	1	1.50	
テルモス	2	0.50	内容量 0.8 ℓ
ガソリンポンプ	1		
ポリタンク (2ℓ)	4	0.23	水用2・ガソリン用2
エアーマット予備	1	0.90	使用量 1
細引 (4mmロープ)	15m	0.15/m	
ヘッドランプ	1	0.2	使用回数 0
電地			単2 - 8コ 単3 - 32コ
軍手	2	0.05	
石けん	1		
※小物類セット	2	1.10	
修理具 "	1	1.30	(ベンチ、ホエブス用パーツ)
スイスメタ	3箱	0.20	使用量は 2、6箱
チリ紙	1,800枚		
トイレットペーパー	3巻		
ハカリ	1	50	50Kgまで計れるもの
あみ	1		
カミノリ	1		

現地でのガソリン購入の際、ガロン缶を3缶小出用として購入する

※ 庖丁、タマシヤク、シヤモジ、缶切、針金、タワシ、マツチ、ボンド
ビニールテープ、ビニール袋、ダスター、さいほう用具

個人装備

品目	数	単位重量	備考
ヤツケ	1	0.44kg	
オーバーズボン	1	0.30	
オーバーミトン	1	0.08	テントシューズ代りに使用の他 使用はなかった。
オーバーシューズ	1	0.46	
キルテングコート	1	0.65	

品目	数	単位重量	備考
セーター	1	0.35	
ニツカズボン	1	0.70	
下着(毛、上下)	1	0.36	
(合維上下)	2	0.16	
ストッキング(毛)	1	0.15	
靴 下(毛)	2	0.10	
手 袋(毛)	2	0.10	
スポーツシャツ(毛)	1	0.42	
日出帽	1	0.10	
ゴーグル	1	0.05	
サングラス	1	0.05	
登山靴	1		
ピッケル	1	0.80	バンド付
アイゼン	1	0.75	
アイゼンバンド	1	0.05	
アタックザック	1		
スパッツ	1	0.07	
安全ベルト	1	0.58	
コンパス	1	0.04	金属類が磁気をおびコンパスの針がひきつけられる事があった
シュラフ	1		
シュラフカバー	1	0.25	
エアーマット	1	0.90	
雨 具	1	0.45	
食器セット	1	0.15	
スプーン	1	0.05	現地ではしを購入、はしの使用が多かった。
ナイフ	1	0.1	

品目	数	単位重量	備考
整理袋	2	0.4	
ノート	1		
靴ヒモ予備	1	0.02	
時計	1		
手拭	1		

その他の共同装備

品目	数	単位重量	備考
キスリング	3	3.50	
ガソリン	50ℓ		現地購入
ローソク	8本		全く使用せず
カメラ	4		アサヒペンタックス レンズ 35mm, 135mm ニコンF レンズ 55mm キャノン7 レンズ 55mm キャノンデミ (ハーフカメラ)
フィルム			カラープリント 20本 カラースライド 30本 白黒フィルム 20本
双眼鏡	1		
高度計	1		
温度計	2		
トランシーバー	2		
ラジオ	1		
地図			
ガスライター用ボンベ	1		
" 石			
封筒			
びんせん			
トランプ	1		
歌集	3		

登はん用具について実際の使用状況に照し合せ考えると、雪の状態からスノーバー、コノ字型アイスハーケンの使用が多く、ロックハーケン、スクリューハーケンの使用がなかつたわけであるが、Mt. Hayes 南稜の登はん計画を含めて考えれば、きびしい氷に対してのスクリューハーケンは、必要であつたらうしまたロックハーケンも全く無いでは不安であろう。スクリューハーケンに関しては、パイプ状のものが有効であると思う他のアイスハーケンに関しては、平型のものは、氷に対して全く打ちこめなかつたがコノ字型のものは、よくきいてくれた。また長さ20 cm程のものが扱いやすくスノーバーについては、今回のスノーバーの長さが50 cm程のものばかりであつたが1 m程のものを最長のものとして長短の種類が用意できれば、もうしぶんないと思う。

生活用具について言うと、ベースにおけるストーブのプロパン化は遠征の登はん形式にもよるが遠征に期間が長くなる程ベースでのおちつきなどを考えるとプロパンガスの使用はいいと思う。アラスカのように軽飛行機を、ふるに利用する場合、入山の荷の重さに、さほど気をつかうこともないのでまたプロパンの規格は、世界的なものであるので現地購入も可能であるためベースキャンプにおけるプロパンガスの使用はいいと思う。また今回のベーステントはフライ付夏用底付のものであつたが氷河上の雨、風、雪に対しては十分であつた。他に気がついた事（実感として思つた事）であるが事故の際パイロットにスノーラケットを持っているかと聞かれ、持つてないと答えた時パイロットは、あきれたような顔をして自分のスノーラケットをはいてモクモクと救助用のランディングコースを作つていた。彼の歩くのを見ていると一般的にアラスカの氷河上の歩行には最適であるのがよくわかつたまたスキーでは扱いにくいあろうと思う。

終りにアンカレッジにおけるスポーツ店の登山道具の値段を参考程度に報告しておきます。

12本アイゼン	\$ 16.75
ハンマー	4.95 ~ 19.95
カラビナ (ジュラルミン製)	2.50 ~ 2.85
アンカー	6.95

スノーバー	\$ 4.00 (1 m程のもの)
登山靴	3 6.7 5 ~ 3 7.5 6
スノーラケット	3 9.5 0
コツセル	4.9 5 ~ 6.9 5 (# 1 6 ~ # 2 4)
手袋 (毛と化繊の混紡)	2.9 5
ロングスパッツ	6.4 9
ミニストープ (ボタン用)	9.7 5
断熱用マット	2.0 0
スクリューハーケン (パイプ状のもの) (ステューバイ)	5.8 5 2.4 0
ジュラルミン製スコップ	5.7 5
靴 下(毛)	2.5 0 ~ 2.9 0
キルテングコート(羽毛)	4 5.7 5
ピツケル(ステューバイ)	1 6.5 0
(グリベル)	2 9.7 5
チヨツキ(羽毛)	1 8.9 5
フイツクスローブ(ナイロン9mm)	2 5 ¢ / f t
(ポリエチレンローブあみ状)	8 ¢ / f t
雨 具	8.5 0

(この値段を調べた店は、The Sports Chalet, Cary King, Eberhard's Sports Shop, Army Shop などいろいろありますが値段は、ほとんど皆同じで、山の専門店というのは、The Sports Chalet, Eberhard's Sports Shop)